

したのち、直ちに Broth に投入し、攪拌し、その0.1 ml を寒天培地に塗抹した。またその10倍液を作り、その0.1ml を寒天培地に塗抹した。これらの寒天培地と Broth は37℃で48時間培養後、殺菌効果の判定を行った。

その結果、汚染ガッタパーチャポイントに対するポピドニョードの殺菌効果について検索したところ、Staphylococcus aureus 209P, Staphylococcus aureus, Staphylococcus epidermidis, Streptococci で汚染されたガッタパーチャポイントは2分30秒以内で殺菌され、Bacillus subtilis のような孢子形成菌により汚染されたものは最小限9分の殺菌時間を要することがわかった。

#### 演題8. ウォームパーチャ術式による根充法について

◦鈴木 英夫, 鈴木 信顕, 内田 英夫  
佐々木 隆博

岩手歯科医師会

根管充填は根管治療の終末処置であり、その目的は根管を緊密に封鎖して根尖組織と根管との交通を遮断し、根管経由の刺激から歯周組織を保護することにある。近年、根管は、主根管のほか副根管、側枝をもち、かなり複雑な構造を有していることから通常、根管系 (Root Canal System) という言葉で呼ばれている。従って、根管充填についても、根尖への到達性だけでなく、根管壁方向さらに、副根管、側枝の閉塞、つまり、根管系の立体的な充填が問題となり、種々の方法がこれまで紹介されている。その1つとして、H. Schilder (1967年) の Warm gutta parcha technic があげられる。ガッタパーチャを加熱、軟化させ、根管内で垂直な圧力を加えて側枝をもガッタパーチャもしくはセメントで満す方法である。もちろん、充填に先立つ canal preparation が重大な決め手となるが、操作の手順としては、G. P を通法のごとく根管に適合させ、ついで根充用セメントを併用して填塞する。そして、heat carrier を赤く熱して根管内の G. P を軟化し、可塑性を得たところをただちにプラグで垂直方向に圧迫する。この操作が根尖近くまで繰返えして行なわれることにより、根管系は3次元的に填塞される。

本法は canal preparation に多少時間を要するこ

と、filling に際しては専用の instruments とある程度の熟練が必要というような難点もあるが、根尖部の閉塞と側枝への充填が確実にしかも容易に、行ない得るということから、複雑な根管系の緊密な充填に最良のテクニックと思われま

#### 演題9. 下顎前突の矯正治療、とくに第一大臼歯の抜去症例について

◦田中 誠, 三條 勲, 多田 耕司  
酒井 百重, 石川 富士郎

岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座

顎の骨格系の異常に起因する不正咬合では、長期間にわたった咬合管理と、適切な時期での矯正治療が必要である。しかしながら、日常の臨床では、しばしば永久歯咬合が完成された時期から開始しなければならない場合がある。当然、治療上の複雑さや治療の限界も生じる。

今回、私達はこのような骨格系の異常の因子をもつ下顎前突で、乳歯咬合期の異常はそのまま放置され、永久歯咬合期となって矯正治療が開始された2症例を提示した。2例とも歯列改善にあたっては、下顎の第一大臼歯の抜去を行なっている。

症例1: 初診時、10才1カ月の女子。

既往歴: 乳歯列時より、反対咬合。

症状: 下顎骨の過成長、上下の歯列不正。

治療経過: chin cap による下顎骨発育抑制、下顎第一大臼歯(66)抜歯、上顎第一小臼歯(44)抜歯による歯列改善。

治療期間: chin cap 使用期間3年1カ月, Direct Bonding 法による治療1年8カ月現在保定に入って4カ月。

症例2: 初診時、12才3カ月の女子。

既往歴: 乳歯列時より反対咬合。

症状: 下顎骨の過成長による Skeletal class III。

治療経過: chin cap による下顎骨発育抑制。下顎第一大臼歯抜歯による歯列改善。

治療期間: chin cap 使用期間2年7カ月, Direct Bonding 法による治療1年7カ月。

私達が、咬合系の育成という歯科医にかせられた使